

活動報告

アカデミー集合研修 in 島原フェスティバル@島原市営平成町多目的広場

2024.03.03~03.06

中国レフェリーアカデミー4期生

中本 万虎平（鳥取県所属）

◎参加メンバー

・ Referee Academy 生 ※敬称略

高須賀哲平（北海道）、松田信清（東北/山形）、宮地夏希（関東/神奈川）、竹平誠（北信越/新潟）、塩津将真（東海/静岡）、宮尾駿希（関西/和歌山）、中本（中国/鳥取）、松崎雄飛（四国/愛媛）、野際祐史（九州/熊本）

・ Referee Instructor ※RAM はレフェリーアカデミーマスター。

泉弘紀氏（JFA 審判マネージャー）、上川徹氏（JFA 審判委員会）、柳澤修氏（北信越 RAM）、角山勝洋氏（関西 RAM）、宮部範久氏（中国 RAM） 秦泉寺力氏（四国 RAM）

・ 事務局&視察

多田浩太さん（JFA 庶務係）、西村雄一さん（JFA・PR）、扇谷健司さん（JFA 審判委員会審判委員長）



◎研修の目的・テーマ

「的確な判定」をするために、よりよい適切なポジションから事象を見極めよう

◎研修スケジュール

・ Day1

3/3 (日) 移動日

宿泊先：島原シーサイドホテル 17:30 ごろ到着。部屋は新館の450号室で3人部屋。
同部屋のメンバーは松崎さん、野際さん。

・ Day2

3/4 (月) 研修1日目

7:00 ロビー集合。→自己紹介：地域と名前、顔合わせ。

7:10 朝食・・・バイキング形式

8:30 宿舎出発。

8:40 島原市営平成町多目的広場に到着。到着後すぐ銅像の前で記念撮影。

10:00 最初の試合 kick off

16:30 試合終了

17:30 会場出発

17:40 宿舎到着

18:00 夕食・・・地元の食材を使った懐石料理→→

19:30 研修I 開始

21:30 研修I 終了

各自 自由時間&就寝

・ Day3

3/5 (火) 研修2日目

7:00 朝食

9:00 宿舎出発

9:10 会場到着

10:30 最初の試合 kick off

17:00 試合終了

17:30 会場出発

17:40 宿舎到着

18:00 夕食

19:30 研修II 開始

21:00 研修II 終了

各自 自由時間&就寝

・ Day4

3/6 (水) 研修3日目



7:00 朝食

8:30 宿舎出発

8:40 会場到着

10:00 最初の試合 kick off

12:30 アカデミー生担当試合終了

12:40～閉校式（10分程度）

解散→バス（タクシー）にて、島原港 or 諫早駅 or 長崎空港へ

◎研修プログラム

○研修Ⅰ Input JFA 強化担当より

・Jリーグスタンダードより一部解説

→Jリーグスタンダードとして動画は出されているが、競技者の安全を守ることはどのカテゴリーでも一緒のこと。特に頭部への負傷の場合（あくまで重篤なケースのみ）はいくらチャンスになっていても、競技者の安全が最優先だとの説明でした。また競技者の安全を守るためには、**よりよい適切なポジション**で、競技者のどの部位がどういう勢いで、相手競技者のどこに入っているのかを見極めることが重要であるとのことでした。

また、的確な判定につなげるため、「ピースを集める」「よりよいメンタルとフィジカルで試合に臨むため、日々のトレーニングを怠ってはならない」との説明でした。

・今シーズン目標とすべきことについて

また、あくまで目安とはなりますが、トップレフェリーを目指すのであれば、スプリントで平均 5.40 秒以内、yo-yo テストで 54 本以上、体脂肪率は 16%以下を目安の数字として日々励んでほしいとのことでした。

・JFA レフェリーセレクション構想

25 歳以下を対象に、国際大会の主審をコンスタントに務める審判員を養成するために、このような構想があるという風に説明を受け、しかし、あくまで構想段階で、主となるのはプール審判員事業であるとの説明でした。

○研修Ⅱ Output 参加のインストラクターより

各々の試合の中から各インストラクター 1 人につき 1 シーン Video を Clip

◎担当試合

①3/4（火）12:20K.O. 大阪学院大学 vs 法政大学 @多目的コート A

R：中本 Instructor：柳澤 修氏（北信越 RAM・長野・1 級 INS）

○良かった点

・事象を近くで見ようという意識は良い。

・同様に PA 内の事象も PA 内まで入ってみようとしていたところは良かった。

○改善点

・反則の起こり方を考え、不用意なファウルをしっかりとれるようにしたい（特にチャージのファウル基準を高くしすぎた）。

・（飲水タイム等の時の）時間を守らせるときや、FK・CK マネジメントでどうやって自分の意志を選手に伝えるか、やり方や意図をもう少し考えよう。

・選手から副審に対して異議があったとき、主審は副審を守らないといけない。

・ビルドアップ時に、チームがボールを下げたときに歩いている。そこから一気に修正しているため、ボールに当たったり、当たりそうだったり、選手の邪魔になったりすることが起きる。→下げたときに歩かず、常に微修正をしていく。

○ワンポイントアドバイス（西村雄一氏より）

・事象を見るとき、FW 側のアクションに意識が行くとノーマルフットボールコンタクトの範ちゅうが広がる傾向にあり、DF 側のアクションに意識が行くとノーマルフットボールコンタクトの範ちゅうが狭まる傾向がある。しかし DF 側のアクションに意識が行く方が、判定は安定しやすい傾向にある。

・審判員が優先して捉えるべき情報は、DF がどういうアクションを起こしたか。その後の FW のアクションは次で良い。

②3/5（水）10:30K.O. 日本文理大学 B vs 新潟医療福祉大学 B @人工芝コート B

R：中本 Instructor：秦泉寺 力氏（四国 RAM・高知・2 級 INS）

○良かった点

・判定はほとんど正しく、違和感はなかった。

・一番重要なゴール前の争点を見ようという意識が良い。

・副審のオフサイドフラッグへの気付きが早く、フラッグに気づかずプレーが続いたことによる、DF 側と FW 側の不必要なコンタクトを防げていたのは良かった。

○改善点

・ゴール前を見ようという意識は良いが、その見方は改善したい。ボールとゴール前の争点と自分が一直線になってしまい、常に首を振って見ている状態（＝事象が起こった瞬間しか見られなかったり、事象を見逃してしまったりする可能性がある）。常に半身の状態で見ようようにしたい。

・FK マネジメントで、声を出して注意しても近づく選手や離れない選手（守備側）、その選手を押す選手（攻撃側）などにどうやって対応するか。

◎学んだこと

特に今回の研修で勉強になったことは、大きく 2 つありました。

選手の意図を考えるということです。

選手はどのようにプレーしたいのか、ファウルを取ってほしいのか or アドバンテージを取ってほしいのか（やられた選手とそれ以外の味方競技者でも変わってくる）、何に対してストレスを感じているのか、今までも考えてはいましたが、より深く考えなければなら

ないのだなと学びました。

また、素直な心も大切だと気づきました。

試合中は毅然と、時には自分の判定・意見を押し通すことも大切ですが、振り返り際には、素直な心で、自分が試合中見たものをありのままに話し、アドバイスを送ってくれるインストラクターの意見をしっかりと聞き受け入れる。当たり前のことを改めて気づかされました。素直な心を意識して臨まないと自分の成長はないと感じました。そのようなところをしっかりとしていないと、日々の生活でも出てくるのだと思い、意識して日々の生活を送っていきたいと思いました。

◎まとめ

まず初めに、このような素晴らしい機会に中国アカデミーを代表して派遣して下さいありがとうございます。

自分のストロングポイントを出せた場面もありましたが、自分に足りないものが多く出た大会でもありました。しかし、自分としては、フェスティバルとはいえ、このような全国トップレベルの大学が集まった大会で主審を務められたことは、自分の中でとても大きな経験であり、収穫でした。

また、他の地域のレフェリーアカデミー生やインストラクターの方々との良い交流の機会となり、オフ・ザ・ピッチでも、サッカーの話や判定に対しての考え方の意見交換をするなど、1人1人が、審判員である前にサッカーを本当に心から愛している1人の人間なのだなと実感することができました。

また、日本トップクラスのレフェリーの方の、プレーのとらえ方、判定に対する考え方、接触の起こり方に対する考え方、競技規則の解釈の仕方など、たくさん勉強になることばかりでした。

今回学んだことを生かし、今後は自分に厳しく、自分を律し、自立した審判員となれるように精進いたしますので、今後ともご指導の程よろしく願いいたします。

改めまして、派遣して下さいありがとうございます。





◎最後に、開催地が長崎ということで、名物「ちゃんぽん」と、海に日本一近い駅の「大三東駅」、そして「島原城築城400年のPR塔」の写真で締めくくらせていただきます。